

医療通訳者基礎養成講座(平成 29 年度第 2 回)報告

9 月 24 日 於 群馬県庁昭和庁舎 35 会議室他 参加者 30 名

助成: 群馬県共同募金会「地域から孤立をなくそう」事業

13:00~山口代表ご挨拶

医療通訳者派遣実績数(9 月末で今後の依頼も含め約 180 件)やその現状のご説明および医療機関に対し制度へのご理解、ご協力をお願いしたいこと等会が抱える課題についてもご説明をいたしました。

13:05~14:10 第1部 講義「医療通訳とは」講師 通訳者 篠宮佳代子氏

医療通訳とは、医療通訳技術(語彙、通訳技術)、対人援助適正、行動規範、多文化理解、マナーなど医療通訳者として理解して理解していなければならないことを総論としてお話いただきました。

14:10~14:20 通訳派遣について会からのお知らせ

- ・病院でのハプニングについては判断する前にコーディネーターに連絡をいただく。・名札は必ずつける。
- ・制度の説明を必ず患者さんにする。・会への報告は次の予約・患者さんの病状について詳細に。

14:20~15:00「医学ミニ講座 呼吸器:咳が止まらない」篠宮佳代子氏

ロールプレイに関連し、呼吸器の解剖・生理・病理をご説明いただきました。

15:00~16:30 第2部 言語別ロールプレイ「呼吸器疾患」

英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、インドネシア語グループに分かれ厚労省テキストを使用して行いました。

【課題】医療機関からは医学を理解した正確な通訳者が必要とのご意見をいただいています。通訳者の日本語力、担当言語力、医学理解、医学用語理解、文化の橋渡しとしての臨機応変な態度など多くの内容を学ぶ必要が指摘されています。群馬県の医療通訳者のレベルを総体として上げる必要があります。

【ロールプレイ各言語 講師の講評】ロールプレイのシナリオの良しあしがロールプレイにも影響する。ロールプレイで参加者と検討しあえるようなシナリオが望ましい。医療用語と患者さんに理解できる用語が異なり、患者さんに合わせた言葉を通訳者が選択できる必要がある。国によって方言が大きく異なることもあり、ロールプレイで使用する単語を選定することには慎重である必要がある。参加者のレベルは各自が持っている専門、仕事内容など幅が大きい。基本的な語彙は辞書を作りしっかり覚える必要がある。参加者は皆一生懸命参加していた。

【参加者の皆さんからのアンケート結果】

- ・参加した理由: 通訳技術向上 10 ・言語グループ練習 11 ・情報収 7
- ・講義「医療通訳とは」: よかった 12 ・まあまあ 3 具体例があってよかった。まとまりが必要。
- ・ミニ医学講座: よかった 13 ・まあまあ 2
気管・肺の働きの説明がほしい 呼吸器官の名称がほしかった わかりやすかった
- ・ロールプレイ: よかった 14 ・まあまあ 1 現場と同じような練習が必要 3。自分に不足しているところがあった。
緊張した。指導がよかった 3。復習したい。専門用語を用いない表現を学ぶことができた。話す機会が少ない。
- ・言語グループ自主学習について: 定期的に学習したい。機会があれば参加したい。事前に知りたい。
- ・次回希望: 癌 糖尿病 2 外科 整形外科 病気の症状の表現 メモの取り方 2 (実際に見たい)
医学講座とロールプレイがあるとよい。通訳件数の多い科の勉強 2。表現・言語の記憶テクニック。
疾患の講座は事前にわかっているとよい。ロールプレイも関連していることがわかっていたらよかった。